

普及項目	加工、流通
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ノリ
対象海域	熊本有明海

ノリ共同乾燥施設整備への支援について

県北広域本部水産課・宮崎 孝弘

【背景・目的・目標（指標）】

本県におけるノリ共同乾燥（以下「共乾」という。）施設の整備は、平成 20 年（2008 年）に大浜漁業協同組合が水産庁補助を活用して 2 棟を整備したことに始まり、その後 2 地区（熊本北部、住吉）で民間企業の資金による整備が進んだ結果、現在は 3 地区で共乾が行われている（図 1）。

当課では、平成 26 年（2014 年）から管内漁業協同組合（以下「漁協」という）を対象に共乾施設導入シミュレーションを行い、その結果等に関する説明会を開催してきた。この取組みが功を奏し、平成 28 年（2016 年）以降、大浜地区で漁協により 1 棟、熊本北部地区で株式会社 ARC により 3 棟、住吉地区で株式会社伊藤海苔機械（以下「伊藤海苔機械」という。）により 2 棟が整備された。その結果、乾ノリの品質向上・安定生産、漁業者の所得向上や新規就業の促進にも大きく寄与している。

また、網田地区において共乾施設整備計画（令和 8 年（2026 年）稼働予定）が具体化したため、当課も地元自治体と連携して指導、助言を行い、課題の解決に取り組んだ。

【普及の内容・特徴】

- （１）住吉地区の共乾施設は、ノリ漁業者に機器を販売する伊藤海苔機械が、自ら共乾施設を整備するという取組みが特徴的であることから、同社の協力を得ながら、県内外の関係団体による視察に対応し、共乾施設の整備効果や運営状況等について広く情報発信することができた。
- （２）網田地区の施設整備においては、発生した用水が課題であったが、今後、他地区で共乾施設の整備を検討する際にも参考となることから、対応経過を整理した。

【成果・活用】

- （１）住吉地区について（図 2, 3）

当課が主催した視察では、令和 6 年度（2024 年度）の全国海区漁業調整委員会連合会事務局長会議で 40 名、令和 7 年度（2025 年度）の九州ブロック漁業士研修会勉強会で 50 名、大学生の卒論作成に係る視察で 2 名を受け入れる等、2 年間で県内外から 100 名を超える参加があった。この他ノリ商社や他県の漁連等、多数の団体が同施設を視察している。

視察では、施設内部に整然と設置されている最新機器を見学し、施設担当者から取組みに至った経緯や稼働時の状況について説明が行われた。また、施設利用者からは、乾燥作業から解放されて心身の負担が軽減されたことや、品質の良い乾海苔が製造できていることが紹介され、視察者からは驚きとともに共乾施設の整備を自県でも勧め

たいとの声も多く聞かれた。

(2) 網田地区について (図 4, 5)

共乾施設で使用する海水と真水については、既存の海水タンクや井戸を使用することとなったが、以前からこれらを使用している漁業者や地元住民等との調整や供給経路の検討が必要であった。このため、漁協や市の担当者と複数回の打ち合わせや現地確認を行い、取水場所や共乾への供給経路等を決定し、一定の方向性を整理することができた。

【達成度自己評価】

4 目標 (指標) はほぼ達成できた (76～100%)

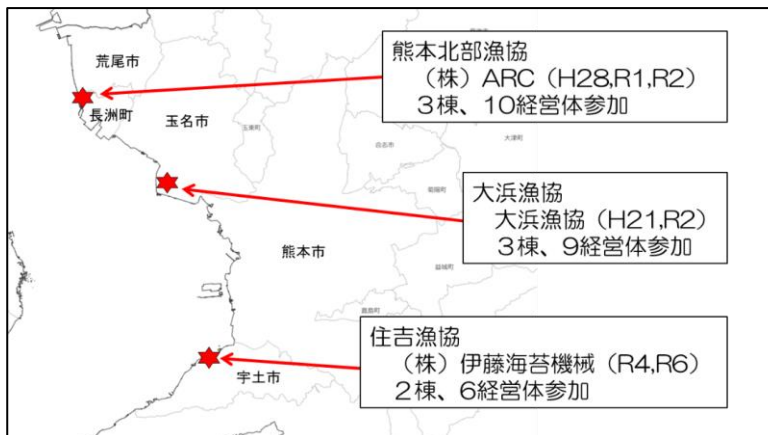


図 1 県内のノリ共乾施設



図 2 住吉地区の視察の様子



図 3 共乾施設内部を説明する設置者



図 4 網田地区共乾施設で使用する予定の
海水タンク



図 5 網田地区の共乾施設建設予定地